

学校教育目標	自分を大切に まわりを大切にできる わくわく ほかほか があふれる東野小にしよう	経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 大崎上島の招待を担う 大崎上島を愛し、地域貢献する子供を育てる。 【ビジョン】「生きる力」の育成(子供の自立・未来)のために、子供と地域のひと、もの、ことをつなぎ、地域とともに学校を創る 【ポリシー】安心があふれ、自信の育つ学校づくり (心理的安全性の確保 自己肯定感の育成 メタ認知能力の育成)
--------	---	--------------------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価	改善方策 今後に向けて
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	担当	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	コメント	
確かな学力 資質・能力の育成 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 子どもの「学ぶ意欲(わくわく)」を高めるとともに「確かな学力」を育成する	☆授業のイノベーション ☆カリキュラムデザイン 【授業改善】 ①子どもの主体的な学びの機会をマネジメント 【自己調整学習能力】 ②児童が主体的・協働的に学ぶ授業風景 【ことばの力】 ③表現力の育成	○選択・自己決定の場があり、児童自身が学びのコントロールができるような機会をつくる 【機会 スキル 雰囲気】 ・自由進度学習の推進(学びのコントロール) ・ふりかえりを重視(メタ認知) ・家庭学習の仕方の工夫(めあて、選択、自己決定) ・授業ガイドシート等の活用 ・ICTの活用(eライブラリ等) ・ロイロノートの活用 ・読書・音読の推進(キャンペーンの実施) ・家庭での音読、読書の実施 ・授業、帯タイムでの音読、暗唱の実施	①授業改善 ・自由進度学習の実践 ②児童のふりかえり ・「わくわくチェックシート」でできた日数 ・「わくわく進んで勉強できた」 ③児童アンケート ・「自分の意見を言うことができた」 ・「相手の話をよく聞いている」	①100% (学期に1単元は実施) ②80% ③80%	教務研究	①80% ②96% ③80%	①80% ②120% ③100%	①B ②A ③A	①目標値を下回ったが、選択・自己決定の場を設定し、児童自身が学びをコントロールする機会を作ることができた。 ②目標値を大きく上回ることができた。自由進度学習以外でも、ICTを活用する等、選択・自己決定の場を設定したことが要因ではないかと考える。 ③目標値と同程度であった。3学期からは、「東野小よりよい対話をするために」という掲示を作ったことで、児童が意見を言ったり、相手の話を聞いたりするときに意識が高まったのではないかと考える。	・主体的でない幸せになれない。そのためには小さな成功体験の積み重ねにより自信を木ことが大切。それが自己肯定感の向上になる。 ・児童はよく話してくれる。 ・児童が良い学校生活を送っている。 ・地域も楽しい。 ・相手の意見を聞いた上で自分の意見が言えているのはよい。	①自由進度学習を実施することができたが、内容に関しては、より質の高いものにしていく必要がある。また、確かな学力を身に付けていくための学習機会となるように工夫していきたい。 ②ICTを活用し、自分のやりたい学習や教材を選択・自己決定の場できる場を増やしていきたい。 ③自己肯定感を高め、自分の本音が誰に対しても言えるように「東野小対話城図」を活用していきたい。
豊かな心 地域や学校で周りの人とかがわり合うことを通して、自他を大切にできる心、故郷を愛する心、自信、思いやりや感謝の心を育てる	【自己肯定感】 ①自己肯定感を高める 【考動力】 ②自他を大切にしようとする心情や態度の育成 ③自分で考え、よりよく行動する力の育成	○道徳教育の充実 ・道徳の時間の授業改善(Do talk) ・道徳教育プログラム(他教科、行事、特別活動との連動) ・メタ認知(ふりかえりの充実) ・道徳的な環境整備(ナッジ理論) ・日記指導 ・生活4項目(感謝、挨拶、返事、靴そろえ)の評価の工夫 ・「ほかほかの木」の取組 ・「わくわくの種」の取組 ・学校応援隊の活用	①児童アンケート ・「自分のことが好きである」 ・「自分にはいいところがある」 ・「自分はまわりの人から大切にされている」 ②児童アンケート ・「まわりの人の気持ちを考えて行動できた」 ・「きまりを守っている」 ③児童のふりかえり ・「わくわくチェックシート」でできた日数 ・「わくわく進んで行動できた」	①90% ②80% ③80%	教務研究	①82% ②80% ③94%	①91% ②100% ③117%	①B ②A ③A	①目標値を下回ったが、「ほかほかの木」の取組の中で、自分のいいところを認めてもらったり、自分の行動をほめてもらったりすることで、自己肯定感が高まったと考える。 ②目標値と同程度であった。Do talk朝会を取り入れたり、他教科や行事等と関連させた道徳プログラムを組むことで、道徳教育を充実させることができた。 ③目標値を大きく上回った。学校全体で、「わくわくのたね」「東野るるるるるフェス」など、児童がわくわくするような取り組みを実現することができた。	①自分のがんばりを発表し、学校応援隊の方や地域の方に見ていただくことを通して、自分のがんばりを認めてもらったり、褒めてもらったりする機会を作っていた。 ②道徳教育プログラムを継続していき、ねらいの姿により近づけるよう、内容を充実させていきたい。 ③学校全体での取り組みを、変化をつけながら継続していきたい。	
健やかな体 食育、健康教育、体力づくりを推進し、自己管理能力を高める	【自己管理能力】 健康について自己管理できる児童の育成	○健康教育の推進(家庭連携) ・家庭での時間の使い方 ・健康に関心を持つための発信 ・生活頑張りカードの実施 ・食育、給食指導の充実 ○目的を明確に、適切な目標を設定した体育的活動	○生活がんばりカード等 ・早寝(各学年の目標の時間までに寝ることができた児童の割合 ※平日5日間)	70%	生徒指導	70%	100%	A	1月の生活がんばり週間で平日各学年の目標時刻までに寝ることができた児童は70%であった。目標値に向けて引き続き2学期末にも保護者への健康相談や児童への個別指導、全体への保健指導を行い、家庭へ早寝の大切さの意識づけを行ったことが効果的だったと考えるしかし、目標値は達成したが月によって未達成の月もある。	課題のある児童や家庭への継続的な指導が今回の目標数値達成のカギとなったため、さらに目標時刻までに就寝できる児童を増やせるよう引き続き個別指導や家庭への指導を行っていききたい。今後も睡眠のみにかかわらず、歯磨きや食事等自ら健康により行動が自らできる児童を育成していきたい。	
信頼される学校 地域、保護者と双方向のつながりを持ち、同じベクトルで学校づくりを推進する	【地域とともに学校を創る】 学校・家庭・地域のつながりを深める情報発信を行い、説明責任を果たすとともに、協力を得る	○学校の取組を分かりやすく伝える情報発信を行い、理解と協力を得る ・sigfylによる細かな連絡 ・学校からの情報発信 ・PTA役員会 ・参観日、懇談会 ・行事 ・HP、メール、学校通信等	○保護者アンケート ・学校からの情報発信について	95%	教頭	94.1%	99%	B	現在までに学校だよりを65号発行し、こまめに保護者や学校応援隊の方に情報を発信した。その結果、保護者アンケートの「学校からのお便り等を通して、学校や子供の様子、お知らせ等がよく分かる」の項目では、94.1%の肯定的評価を得ることができ、一定の成果があった。学校行事等への参加数を見ても、情報は十分に伝わっており年間を通じて多くの方からの協力を得ることができた。学校応援隊拡充に向けての取組も積極的に行い、現在67名となっている。	・行事等以外で学校に行くのは、まだ敷居が高い。学校に行きやすくなる工夫がほしい。	十分に情報を届け、学校応援隊の隊員も増加しているが、協力していただける隊員の固定化が見られるため、より幅広い方にご来校いただき、協力を得ることができるよう学校へいきやすい雰囲気を醸成するとともに、呼びかけ方の工夫を図っていききたい。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60